

Mokutai Kyo

木耐協

マンスリーレポート

2026.6
vol.
330



- 1.主屋。その奥に幕末頃増築された離座敷がある
- 2.離座敷の中央にある富士山の祭神を祀る「御神前の間」
- 3.主屋の北側。内部の意匠や構造に極力影響を与えない工法として、鉄骨フレームが採用された

今号の表紙

富士山信仰の拠点「御師(おし)の家」として宿坊や祈祷の役割を担った旧外川家住宅(富士吉田市/重要文化財)。主屋は明和5年(1768)築、幕末頃に増築された離座敷とともに当時の宿坊の姿を今に伝える貴重な世界遺産・構成資産です。江戸時代には86軒もの御師が軒を連ねた上吉田の歴史を象徴するこの建物は、2024年から耐震補強工事が行われ、2026年4月8日から再公開されました。

写真提供・URL：
ふじさんミュージアム(富士吉田市教育委員会歴史文化課)
<https://www.fy-museum.jp/info/28>



特集

新たな「住生活基本計画」が 閣議決定



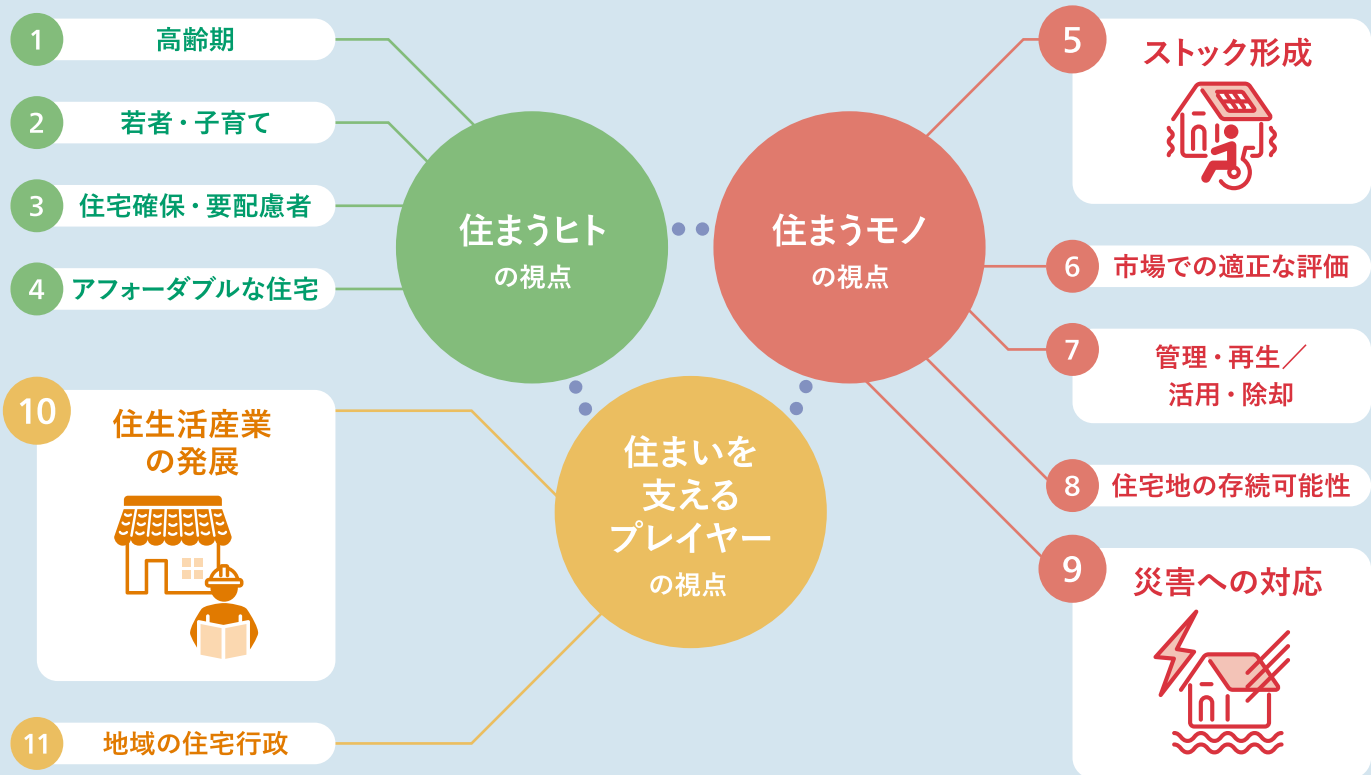
日本木造住宅耐震補強事業者協同組合



住生活基本計画（全国計画）の3つの視点と11の目標及び施策の方向性

今回の計画は「ヒト・モノ・プレイヤー」という3つの視点から整理されています。(1) あらゆる世代・属性の人(ヒト)が無理なく住まいを確保できる。(2) 住宅ストックを長く活かし

循環させる仕組み(モノ)。(3) その両方を支える事業者・自治体・国の体制(プレイヤー)が、互いに連携しながら機能することで、国が描く住宅政策の実現を目指しています。



耐震なくして目標達成なし！
すべての目標に耐震が必要

国は2035年までに、耐震性が不十分な住宅ストックの解消、既存住宅の流通・リフォーム市場の拡大、空き家問題の解消に注力するとしています。この計画は、皆様の

私たちのために
この計画は「追い風」

字通りの「土台」といえます。
すべての目標達成を支える文

目標達成の前提条件としての耐震
この11の目標を俯瞰すると、既存住宅を活かし、多世代にわたって安心して住み継ぐ社会を実現するという大きな方向性が見えてきます。そしてその前提に立ち上がるのが「耐震化」という課題です。断熱性が向上し、見た目がきれいになっても、地震で倒壊しては意味がありません。



ビジネスそのものを国が必要だと後押ししている内容です。物価上昇や人口減少を受けて新築需要が縮小するこれからの住宅市場で、既存住宅活用のニーズは高まる一方。耐震診断・耐震補強の担い手としての価値も、今後ますます高まっています。
そしてこの計画を土台に、各目標達成(耐震化)を後押しする補助制度や支援施策が具体的に打ち出されてくるのが予想されます。木耐協では、そうした情報をいち早くキャッチし、皆様の事業に直結する形でお届けしてまいります。これからも共に、住宅の耐震化を推し進めてまいります。

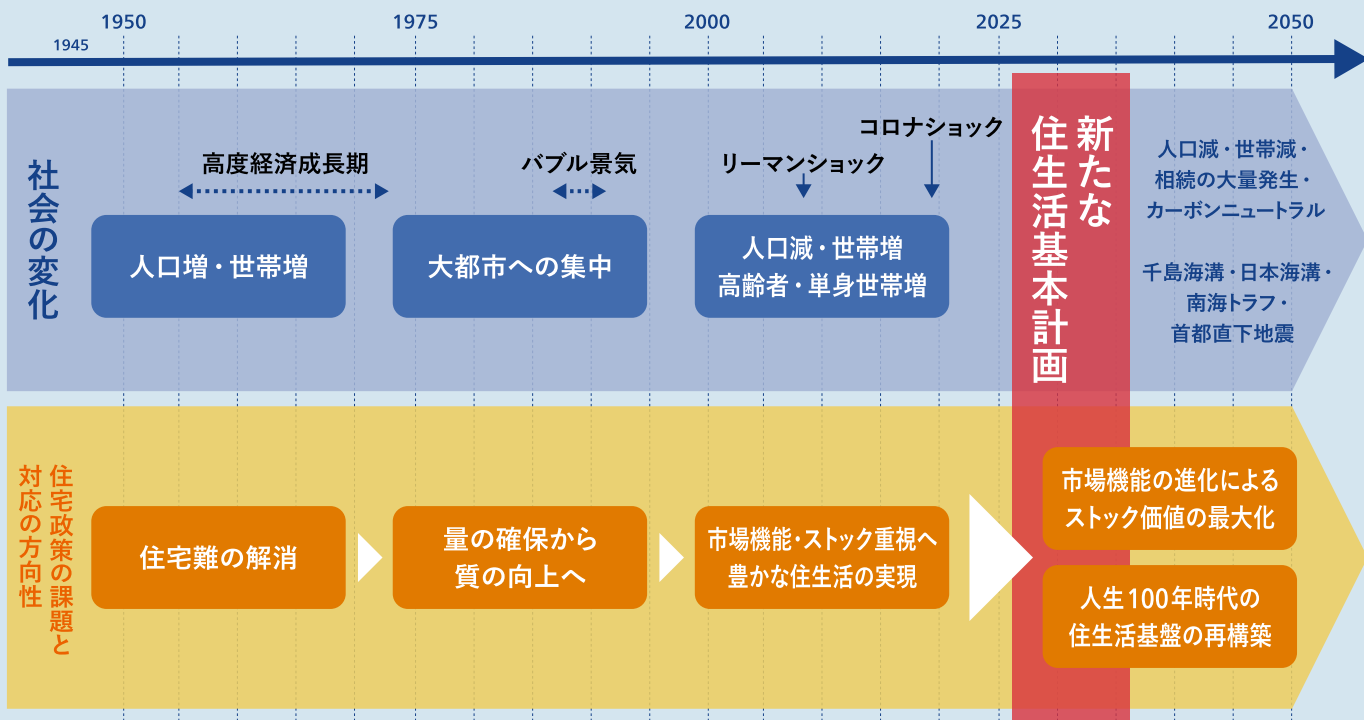
特集 新たな「住生活基本計画」が閣議決定

2050年を見据えた住宅政策の大転換と私たちの「耐震」が果たす役割

出典:国土交通省 住生活基本計画(全国計画)
https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk2_000032.html

2026年3月27日、新たな「住生活基本計画(全国計画)」が閣議決定されました。今後の住宅政策の方向性を大きく左右するこの計画について、その概要と、私たち耐震に取り組む事業者にとっての意味を読み解きます。 文:伊藤健三

住宅政策の変遷と2050年に向けた方向性



10年を超える長期目標を掲げた「住生活の将来ビジョン2050」

新たな住生活基本計画の方針

2050年を見据えたこれからの10年計画

人生100年時代。ストック価値の最大化を目指す

住宅政策のロードマップ 5年ぶりの改定

「住生活基本計画」は、住生活基本法(2006年)に基づき、おおむね5年ごとに見直される住宅政策の基本計画です。国土交通省・社会資本整備審議会での約1年半の議論を経てとりまとめられ、補助金・支援施策すべての方向性を示すものです。

本計画は、上記の年表にもあるように四半世紀ごとに大きな政策転換期を迎えます。今回は、2050年の社会像をまず明確に描き、そこから逆算して向こう10年にやるべき具体的な施策を定めています。人口減少・高齢単身世帯の急増・相続空き家の増加を背景に、「新築中心」から「既存ストックを活かして循環させる社会」への転換点となっています。

講演紹介 1

地震予知研究の最前線 巨大地震発生の直前に発生していた先行現象の発見

一般社団法人 日本地震予知学会 会長 / 東海大学 & 静岡県立大学 客員教授 長尾年恭氏

<講演のポイント>

- ▶ 巨大地震の直前に生じる電離層の異常を発見し、直前予知への実用化を目指している
- ▶ 南海トラフ巨大地震は歴史的な周期などから2030年代に発生する可能性が高まっている
- ▶ 地震予知研究と並行し、命を救うには建物の耐震補強が何より重要である



講演紹介 2

大切な家族を守る! 備えない防災、フェーズフリーとは?

防災アナウンサー 奥村 奈津美氏

<講演のポイント>

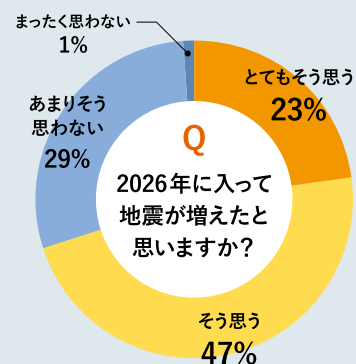
- ▶ 日常の物が災害時にも役立つ「フェーズフリー」で、備えを常に実践する状態にする事が重要
- ▶ 在宅避難ではトイレや水の準備が最優先。停電時に自動点灯する電球も有効。
- ▶ 食品の「プラス1備蓄」や家族の予定共有など、日常の延長が命を守る行動となる。



受講者アンケート結果

2026年に入って、地震の頻度増加を感じている人が多い

2026年に入って地震が増えたかという質問では、「とてもそう思う」「そう思う」の合計が約70%となりました。セミナー参加者の多くが2026年の地震活動に対して強い関心と警戒感を抱いている事がうかがえます。(本アンケートは、4月20日の三陸沖地震より前に実施しています)



その他のアンケート結果は右のQRコードでご確認ください

次回は6月20日(土)に行います(P11に掲載)



Seminar

木耐協セミナー
開催報告

Vol.05

テーマは『地震予知最前線 & フェーズフリー』のべ200人にご参加いただきました!

2026年 第1回 消費者向けオンラインセミナー

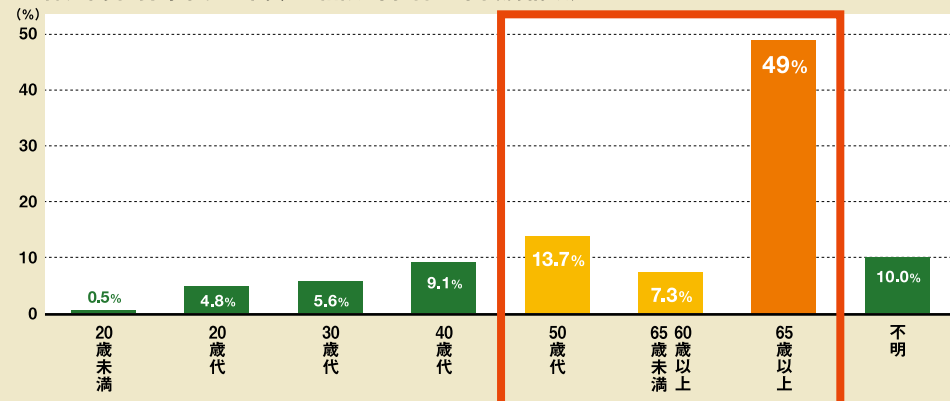
年4回開催する「消費者向けオンラインセミナー」の2026年第1回を、4月11日(土)に開催しました。講演のポイントと参加者のアンケート結果を一部紹介します。

トピックス 1

狙われるシニア層。特定商取引等事犯に関する相談者の70%以上が50代以上に集中

※特定商取引等事犯とは、点検商法や霊感商法など、法律を無視して消費者を欺き不当な契約を迫る犯罪行為。

■ 特定商取引等事犯に関する相談当事者の年代別構成比 (令和7年)

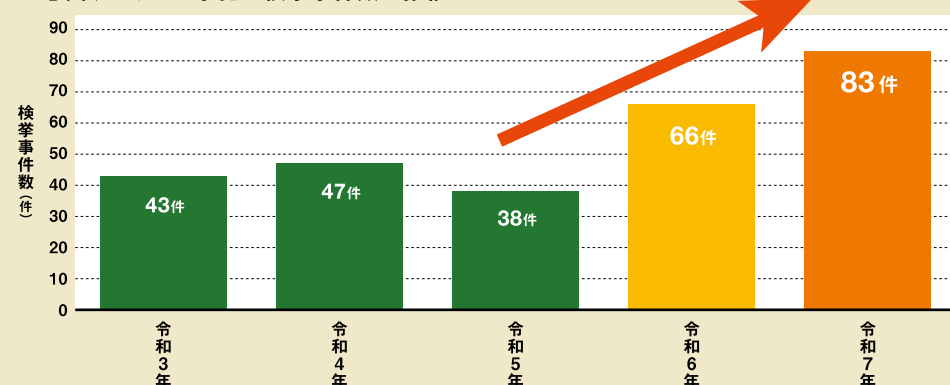


- ▶ 特定商取引等事犯に関する相談当事者は65歳以上が約半数(49.0%)を占め、50歳代以上まで合計すると70%

トピックス 2

悪質リフォーム事犯の検挙件数は2年連続で過去最多を更新

■ 悪質リフォーム事犯の検挙事件数の推移



- ▶ 令和7年の悪質リフォーム事犯の検挙件数は83件で、前年(66件)より17件増加し、2年連続で過去最多を更新
- ▶ 手口は、高齢者宅を狙い、屋根や水道管、分電盤の経年劣化などを口実に不安を煽る点検商法が多い

令和7年の悪質リフォーム事犯の検挙件数は83件で、統計の残る平成22年以降で最多となりました。被害額も約151億6千万円にのぼり、前年の約3.3倍に急増しています。手口は「屋根の瓦がずれている」「このままでは雨漏りする」など、高齢者の不安をあおって高額な工事契約を結ばせるものが典型です。検挙事件のうち34件で匿名・流動型犯罪グループ(トクリュウ)の関与が確認されており、闇バイトで集められた実行役が関わるケースも目立ちます。悪質業者の横行は、真摯に事業を営む工務店・リフォーム会社の信頼までも損なう深刻な問題です。

警察庁「令和7年における生活経済事犯の検挙状況等について」
<https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/seikei/index.html>



見逃せない

お役立ちデータ

をご紹介します!

第19回

悪質リフォーム業者による被害が過去最多
検挙件数は2年連続で最多を更新

警察庁 生活経済事犯の検挙状況

▼本コーナーでは、様々な団体が発表しているデータから選りすぐりの情報をお届けします。
▼今回は、警察庁が2026年3月に発表した「令和7年における生活経済事犯の検挙状況等について」の中から、悪質リフォーム事犯に関するデータをご紹介します。

調査対象

警察庁生活安全局生活経済対策管理官が、令和7年(2025年)1月から12月までに、全国の警察が検挙した生活経済事犯をまとめたもの。
※生活経済事犯とは、悪質商法やヤミ金、偽ブランド品販売など、人々の財産を狙う経済的不正行為や犯罪のこと

これからの
工務店は
営業しない！

相続相談から始まる 新たな受注戦略

第10回

相談者に 信頼される話し方

“専門家っぽくない”ほうが
うまくいく理由

相続相談で一番大事なのは難しい言葉を並べて専門家らしく見せることではありません。
大事なのは、寄り添って話を聞いてあげること、現状を整理してあげることで、問題があれば気づいたことを分かりやすく伝えてあげることです。

生命保険など金融商品を販売している、赤いイメージカラーの会社の営業マンを想像すると分かりやすいかもしれません。地域をまわり、日常的に顔を出しながら関係性を築いています。商品だけ見れば、特別に資産運用に向いているように見えないものもありま

聞いているからです。その積み重ねの中で信用と信頼が生まれ、「この人から買いたい」と思ってもらえるのです。つまり、人が本当に価値を感じるのは商品そのものではありません。

ただだけ寄り添ってくれたか、どれだけ自分の話を聞いてくれたか、その過程に価値が生まれ、結果「この人に任せたい」と思ってもらえます。やはり最後は人なのです。

このようなことを私は「プロセス営業」と呼んでいます。まずは話を聞き、「それは大変でしたね」「その状況なら悩みますよね」といった言葉で共感してあげる。そして現状や問題点に



ついて気づいたことがあれば分かりやすく伝えてあげましょう。この積み重ねが信頼関係をつくり、「この人にお願したい」と思ってもらえるようになります。無理に何かを売ろうとする必要はありません。

信頼を積み重ねた先に、自然と仕事はついてくるのです。

次回は、家族と未来を考える「相続の話」から始まる家づくりについて解説します。



プロフィール

株式会社デザインライフ

代表取締役 杉村洋介

岡山県出身。26歳で保険代理店「デザインライフ」を設立後、2015年より相続コンサルタント事業を開始。年間約500件の相続相談に対応し、遺言・信託・相続税・登記・保険・不動産など幅広くサポート。現在は全国の相続専門育成にも携わる。

Tel 0120-009-422

E-mail dl-consultant@design-life.jp

Webサイト https://design-life.jp

住所 〒700-0975 岡山県岡山市北区今3-9-12

2026年
6
月号

耐震診断・補強の疑問・質問にお答えします！

鈴木
顧問の技術通信



鈴木芳郎 千葉県生まれ。1級建築士。
2024年に木耐協技術顧問に就任し、
研修会講師を担当。以前、執行役員を
務めていた会社で工務店経営コンサルや
商品開発支援、仮設住宅建設に尽力。

今月のテーマ

2025年版 「木造住宅の耐震診断と 補強方法」 2012年版との主な違い②

冬季オリンピック、WBCが終了しましたが、日本人の活躍には目を見張ります。なぜここまで強くなったのでしょうか。科学的なトレーニング方法や優れた指導者が育ってきたこと、さらに脳科学・心理学に基づくメンタルトレーニングを国を挙げて取り組んできた成果でしょう。しかし最も大事なものは「思い」ではないかと感じています。「世界一の選手になりたい」「この競技をメジャーにしたい」と、一人ひとりから強い思いが伝わります。それも個人的な欲だけでなく、社会貢献への意志に感じるので。私たち業界も「命を守る」「地球環境に貢献する」「空き家問題を解決する」という強い思いをもって住まいづくりに臨みたいものです。

テーマ 接合部仕様「Ⅱ+」の新設で補強設計しやすく

■ 表3.5 接合部の仕様

接合部ランク	仕様
接合部Ⅰ	平成12年建設省告示第1460号に適合する仕様
接合部Ⅱ+	羽子板ボルト、短冊金物、引き寄せ金物等
接合部Ⅱ	山形プレートVP、かど金物CP-T、CP-L、込み栓等
接合部Ⅲ	ほぞ差し、釘打ち、かすがい等（構面の両端が通し柱の場合）
接合部Ⅳ	ほぞ差し、釘打ち、かすがい等

告示表三
に

「2012年版」では、接合部の仕様はⅠ～Ⅳの4ランクに分類されていました。「2025年版」では新たに「接合部Ⅱ+」が追加されています。これは、短期許容引張耐力7.5kN以上の接合金物を柱頭・柱脚に施工した状態を指し、最高ランクの「Ⅰ」には満たないものの、Ⅱよりも高い評価を受ける仕様です。

従来、接合部を最高ランク「Ⅰ」として評価するには、告示仕様に適合したホールダウン金物などの強固な金物が必要でした。しかし実際の改修現場では、既存構造や施工条件の

制約から、こうした金物の取り付けが困難なケースも多くありました。

そのため、7.5kNクラスの金物を施工しても接合部仕様Ⅱとしか評価されず、Ⅰと比べて低減係数が大きくなるのが課題でした。新設された「Ⅱ+」の低減係数は下表のとおりⅠに近い値に設定されており、現場の制約がある場合でも補強設計がしやすくなったといえます。

■ 表3.7 壁端柱の柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数 K_j
2階建ての1階

壁基準耐力仕様	2kN/m			3kN/m			5kN/m			7kN/m			10kN/m		
	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
接合部Ⅰ	1.00	0.89	0.78	1.00	0.87	0.74	1.00	0.82	0.65	1.00	0.77	0.55	1.00	0.68	0.37
接合部Ⅱ+	1.00	0.89	0.78	1.00	0.87	0.74	1.00	0.82	0.65	1.00	0.77	0.55	0.51	0.44	0.37
接合部Ⅱ	1.00	0.89	0.78	0.79	0.77	0.74	0.72	0.68	0.65	0.63	0.59	0.55	0.49	0.43	0.37
接合部Ⅲ	0.80	0.78	0.76	0.77	0.74	0.72	0.69	0.66	0.62	0.61	0.57	0.52	0.46	0.40	0.34
接合部Ⅳ	0.78	0.76	0.73	0.74	0.72	0.69	0.67	0.63	0.60	0.58	0.54	0.50	0.44	0.38	0.32

→ 7kN/m以下ではⅠとⅡ+の低減係数は同じ！

技術的なご相談はこちらへ！

Mail mts@mokutaikeio.com

Tel 03-6261-2040 (木耐協事務局)

経営基礎講座

会社の未来を考えるのが社長の仕事

小規模事業者によく見られるのが、社長が4番でエースという状況です。会社の売り上げのほとんどを社長が作っている状況が多く、創業社長であればその傾向は一層強まり、ナンバー2の実力差は倍以上開いている事も多くみられます。毎月の数字を作り安定した経営をすることも大事な仕事ですが、適切な成長に向かう道に会社を導くことも大切です。そのためには社長が未来に対する事を考え、学び、人に会う時間を確保する必要があります。社長の中心にある判断

基準や方針を言葉や仕組みにして「見える化」しておくとい良いでしょう。

マニュアルで判断基準を見る化

「見える化」するポイントは二つあり、一つは「判断基準を言葉にすること。例えば「粗利〇%以下は受けない」「値引きはここまで」など、迷いや判断基準を先に決めておくことです。例えば緊急のクレームや問題が発生した場合、上司の稟議なしで使える金額等を決めておくことで、解決の速度を上げ問題の深刻化を防ぐ効果も期待できます。

す。商談・工事中・アフター・クレームなど場面別にまとめておくとい汎用性の高いマニュアルになります。最初はやってはいけない事をまとめるだけで十分です。

二つ目はマニュアルの活用状況を定期的に計測する機会を作ることです。問題が起きた時もそうですが、定期会議の中に組み込んで常に話題にあげて確認するのも効果的です。社内のコミュニケーションは「わかってもらえらるだろう」と思いますが、そうではありません。仕組みで誰でも同じ判断ができる状態を作れると、社長の時間を増やすことができます。

プロフィール



石原直之

1989年に新卒でホームイング（現ミサワリフォーム）に入社。1992年ホームテック（東京都、売上65億）創立に参加。取締役として営業、マーケティング、新規事業部門長を歴任。2020年より中小リフォーム会社の経営者の業務をサポートする業務支援株式会社を設立し現在にいたる。日本住宅リフォーム産業協会（ジェルコ）理事、事業開発統括委員長も務める。

業務支援株式会社 E-mail ishihara@g40.biz

第4回

社長が本来やるべき仕事とは？

未来を考える時間を作るために、判断基準をマニュアル化する

▼ 昨今の猛暑により急増する「夏型結露」、寒い時期の「冬型結露」など、建物に深刻なダメージを与える結露のメカニズムを基礎から学ぶ日本初の資格です。赤外線サーモグラフィ技術を応用した最新の診断手法から、現場調査の実践、予防・改善提案までを網羅。リフォーム後にクレームになりやすいカビや結露の対応策や、住まいの健康を守るリフォーム提案に直結する専門知識を習得できます。

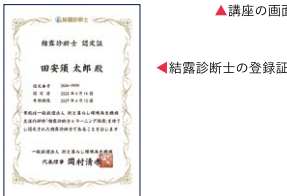
視野や知識を広げ、お客様への提案に役立つ資格をご紹介します。

シ道
資格は武器になる

第20回 結露診断士

ポイント
結露・カビを改善する健康リフォーム提案やクレーム対策に

- ▶ 受験資格：なし
- ▶ 試験方式：e-ラーニング形式（受講、試験までオンラインで完結）
- ▶ 資格取得費用：33,000円（税込）
※更新料：6,600円（3年毎）
- ▶ 試験月：いつでも受講・受験可能
- ▶ 管理団体：一般社団法人
街と暮らし環境再生機構
<https://www.ters.or.jp/e100.html>



News & Topics

国土交通省 空き家対策の特設サイト「アキヤリバース」チラシ・リーフレットが無料で利用可能

国土交通省では、改正空家法（2023年12月）についての啓発活動の一環で、空き家対策に関する特設サイト「アキヤリバース」を公開しています。「空き家すごろく」「住まいのエンディングノート」など、家族等と話し合うきっかけとなるチラシやリーフレットを掲載。連絡先を入れるスペースがあるツールもありますのでぜひ活用してみましょう。

「アキヤリバース」（国土交通省HP内）

<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/akiya-taisaku/index.html>



仕事の成果を左右するのは、やる気ではなく環境の力だった！

Book Review

『できる人は25分で「場所」を変える』

今号の理事長オススメはこの1冊！

デスクやベッドの向きや位置を変えるだけで、劇的に何かが変わる…。昔から風水に興味があり、風水鑑定士の資格まで取った私は、そういう経験をたくさんしてきました。よって、この手の本は素直に読めて共感を覚えますし、納得もします。まさに「信じる者は救われる！」でしょうか…。

著者は一級建築士で、空間デザイン歴30年超の大ベテランであり、自ら立ち上げた「空間デザイン心理学協会」の代表理事でもある女性です。

本の要旨は、頑張っただけでなかなか成果が出ない場合、とかくやる気や努力などが注目されがちですが、それは当事者のせいではなく、その「環境」に問題があることが多いと説きます。それも大きな変化は必要なく、ほんの少しの変化、例えばデスクや椅子の向きを変えたり、座る椅子の位置を工夫したりする

だけで、集中力やパフォーマンスに劇的な変化が現れることがよくあると著述します。

よく「時間と空間」という言い方をしますが、「時間」の大切さは分かり易く、いつも感じます。それに比べ「空間」の大切さについては、いまいち分かり難いような気がします。「空間」は言葉を変えれば「環境」と言い換えられます。「環境」とは（めぐる十さかい）と書きますから、自分を環るその境、身の周りに接する全てのことをいうので、それぞれの細かい事が、如何に大切かが理解できると思います。

ドイツの建築家の言葉として「神は細部に宿る」は有名ですが、建築に限らず、物事は細部へのこだわりが全体の完成度を左右する！のは、間違いない事実です！一つひとつの積み重ねこそが、眼に見える成果の源泉であると再認識しました。



できる人は25分で「場所」を変える

著者／高原美由紀
発行／青春出版社
価格／1180円(税別)



事務局通信

編集後記

4月から子どもと屋内型のアスレチック施設へ通っています。トランポリンや鉄棒に童心に帰って挑んでみたものの、痛感したのは体力の衰えでした。軽々と壁を越えていく子どもたちの横で、私は早々に息が切れ、跳び箱では無理な踏み切りが祟ったのか股関節に激痛が。動かない肉体と関節の硬さに愕然としました。まずは柔軟から始め、怪我をしない身体作りをしたいと思います。(伊藤)

第2回の木耐協オンラインセミナーを6月20日に開催します

2026年第2回木耐協オンラインセミナーを、以下の通り開催します。今回は、地震学の第一人者である平田先生から、地震の最新情報と耐震化の重要性について解説いただきます。また元看護士で豊富な臨床経験がある清水英雄事務所 山本氏から、介護や療養を見据えた住まい・リフォームのポイントをご説明いただきます。組合員の皆様はもちろん、お客様へのご案内や一緒に視聴&相談会など、ぜひご利用ください。

日時：6月20日(土) 10:00～12:00 参加費：無料

テーマ：熊本地震と耐震化 & 将来を考えた住まい

2016年熊本地震から10年
改めて耐震化について考える

平田 直氏
東京大学 名誉教授
(一社)防災教育普及協会 会長



親のこと、自分たちの老後のこと
ずっと自宅で暮らすために、今から考えたい住まいのこと

山本知史氏
清水英雄事務所 株式会社



申し込み・詳細



<https://www.mokutaiyo.com/bousai/>



発行 ● 日本木造住宅耐震補強事業者協同組合

発行人 ● 小野秀男 編集 ● 関 励介、伊藤健三、渥美寿子

所 在 ● 東京都千代田区麹町2-2-31 麹町サンライズビル4階 tel 03-6261-2040 fax 03-6261-2041

木耐協
イベント
広場

現地調査実践研修会

埼玉：木耐協埼玉研修所

2026年4月16日(木)



リフォーム営業4年目で初めて参加しました。耐震についての知識が乏しかったのですが、実際に現場を見ながら説明を聞き、基礎的なところから大変勉強になりました。

三光ソフラン株式会社(埼玉)
田中彩瑛 様

「耐震診断は
具体的にはどういう調査で
どんなツールを使えばいいの？」
に答える、木造住宅を使った実践研修。

秋は9・10月に開催

実際の築古の床下にもぐり、土台の腐り具合・湿り具合を肌で感じる事が出来て、とても理解が深まりました。資料を他のメンバーにも共有し、業務に活かしたいと思います。

札幌アポロ 株式会社 Lig-works(北海道)
村上洋平 様



2025年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法
改訂ポイント解説オンラインセミナー
(オンライン)

2026年4月23日(木)



準耐力壁の考慮や省エネ基準適合による建物重量の評価等、概要はつかめました。実務では木耐博士Nの改訂が出てからですが今から少しずつ理解を深めていきたいと思います。

株式会社デザオ建設(京都)
中西淳治 様

改定された耐震診断法に
ついての30分ミニセミナー
を行いました。

アーカイブ動画は組合員専用
ページでご確認いただけます

解説ありがとうございました。改訂版に対応したソフトを共同購入のような形で安価に提供いただけると助かります。地域の補助金申請にも活用できるソフトが理想です。

株式会社 秋田屋 スペースクリエイターフィット(神奈川)
豊田啓吾 様



常に最新情報を得ることは耐震事業者として当然のこと。改訂・追加情報の提供はありがたいです。今回は2000年築まで補助金対象拡大になり、ビジネスチャンスと捉えています。

有限会社神崎建設(神奈川)
桐月直樹 様



イベントスケジュール	開催日		時間	イベント名	会場	エリア
	6月	4(木)	13:00～17:00	現地調査実践研修会	木耐協埼玉研修所	埼玉
		10(水)	14:00～17:00	理事会	東京	東京
		20(土)	10:00～12:00	第2回木耐協オンラインセミナー	オンライン	オンライン
	7月	17(金)	14:00～17:00	技術向上委員会	木耐協半蔵門事務所	東京
		29(水)～30(木)	各日 10:00～17:00	リフォーム産業フェア(出展)	東京ビッグサイト(西3・4ホール)	東京
	8月	6(木)	eラーニング	第3期耐震技術認定者講習会(～9/10)	eラーニング	eラーニング
		8/11(火)～8/14(金) 事務局夏季休業				
		26(水)	13:00～17:00	真夏のセミナー	未定	東京
	9月	12(土)	10:00～12:00	第3回木耐協オンラインセミナー	オンライン	オンライン
		17(木)	13:00～17:00	現地調査実践研修会	木耐協埼玉研修所	埼玉

※諸般の事情によりイベントが中止・変更になる場合がございますので予めご了承ください。
※各イベントの概要や詳細についてはお気軽に木耐協事務局へお問い合わせください

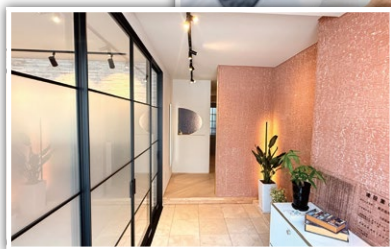
組 合 員 さ ん

こ ん に ち は !

事 務 局 員 が お じ ゃ ま し ま す



▲ 確かな技術と経験が
安心の施工を支える。



▲ リニューアルしたエント
ランス。ご家族の安心を
カタチにします。

▲ 地域の家づくりを支える三人。左から
大工の平井様、大佐和武彦社長、専務の
大佐和悠様。



◀ 元パーカウスターを活かし
てリニューアルされた、くつ
ろぎの打ち合わせスペース。

株式会社 プラスパーホーム様

神戸市東灘区

震災の経験から生まれた
「地震に強い家づくり」への想い

神戸市東灘区で1950年に創業されたプラスパーホーム様は、70年以上にわたり地域に根差した家づくりを続けています。大佐和社長は一級建築士で耐震技術認定者です。阪神・淡路大震災で住宅が次々と倒壊していく現実を目の当たりにした経験が、「家族の命を守る耐震性能」を何よりも優先する現在の姿勢の原点となっています。社名の「プラスパー」には、「繁栄する」「成功する」、そして「子ども

が健やかに育つ」といった意味が込められています。その想いは、一軒一軒の住まいだけでなく、そこに暮らすご家族、さらには地域全体の安心と活性化へと広がっています。

技術と人の力で支える 安心と心地よさの両立

設計・施工を担う専務の大佐和悠様は、お客様の想いを丁寧に汲み取った家づくりをご提案されています。現場を支えるのは、丁寧な手仕事に定評があり二級建築士でもある熟練大工の平井様です。2人のタッグによって、最新の設計ツールを駆使した精緻な計画のもと、構造上の安全性を確保しながら、住む人のこだわりを形にする「ホテルライク」な空間づくりなど、付加価値の高いリフォームを実現しています。

次の100年へ向けて より身近な存在へ

創業100周年を見据え、事務所をリニューアル。元パーカウ

大佐和社長からの一言

建物はお客様にとってかけがえない財産です。その財産を地震から守り、次世代へとつないでいくパートナーとして、技術・知識とともに日々研鑽を積みながら、社員一丸となって取り組んでいます。

ターを活かしたショールーム併設の打ち合わせスペースが整備され、地域の方々が気軽に相談できる環境が整いました。耐震診断から大規模改修まで、住まいに関するあらゆる相談に寄り添う「住まいのドクター」として、これからも地域に寄り添い続けていきます。

震災の経験を原点に、「命を守る家づくり」に真摯に向き合われている姿が印象的でした。確かな技術と温かな人柄が、地域から長く信頼されている理由だと感じます。

事務局:伊藤

